



Japanisch-Deutsche Gesellschaft

Die Brücke 架け橋

日独協会機関誌



表紙の言葉

この「Die Brücke」が皆様のお手元に届く2月はドイツではカーニバル（ファッシング、あるいはファスナハト）のピーク。表紙の写真はやや古いですが筆者がデュッセルドルフに赴任して間もない2017年2月のRosenmontag（バラの月曜日）の様です。デュッセルドルフのカーニバルは、マインツ、ケルンと並びドイツ3大カーニバルの一つとされ、そのハイライトとなるRosenmontagには、街は数十万人の観光客で溢れ100を超える巨大な山車がトラクターに引かれ市街中心部をパレード。山車には国内外の政治・社会状況を風刺するメッセージ性の強い人形や造形が施され、その時々々の世相を反映します。ケーニヒスアレーのブランドショップはショーウィンドウのガラスを割られないようベニア板を貼って保護しているのが印象的でした。今年のRosenmontagは2月16日だそうです。

森 宏之（日独協会理事）

Zum Titelbild

Wenn diese Ausgabe im Februar bei Ihnen eintrifft, feiert Deutschland gerade seine großartige Karnevalssaison (Fasching oder Fasnacht). Die Titelbilder sind zwar etwas älter, aber ich habe sie am Rosenmontag, dem 28. Februar 2017, kurz nach meiner Ankunft in Düsseldorf aufgenommen. Düsseldorf zählt neben Mainz und Köln zu den drei größten Karnevalsorten Deutschlands. Am Höhepunkt des Rosenmontags strömen hunderttausende Touristen in die Stadt, während über hundert riesige, von Traktoren gezogene Festwagen durch die Innenstadt ziehen. Sie zeigen symbolische Figuren und Skulpturen, die die innen- und außenpolitischen sowie gesellschaftlichen Verhältnisse kritisch darstellen und gleichzeitig das soziale Klima der jeweiligen Zeit widerspiegeln. Beeindruckend war auch, wie die Markengeschäfte auf der Königsallee ihre Schaufenster mit Sperrholzplatten vor Glasschäden schützten. Der Rosenmontag dieses Jahres ist am 16. Februar.

Hiroyuki Mori (Vorstandsmitglied der JDG)

目次	ページ / Seite	INHALT
新年のご挨拶	ペトラ・ジグムント 1	Grußwort zum Neujahr Petra Sigmund
レポート：2025年クリスマスの集い	2	Bericht: Weihnachtsfeier 2025
11月・12月の協会活動報告	3	JDG-Aktivitäten im November und Dezember
私とドイツ File 32	中野 史也 7	Deutschland und ich File 32 Fumiya Nakano
ベルリナールフト： まんが&エンターテイメントエキスポ（MEX）での楽しみ キルステン・ホーアイゼル	8	Berliner Luft : Viel Spaß auf der MANGA & ENTERTAINMENT EXPO (MEX) Kirsten Hoheisel
特別寄稿：エドムント・ナウマンとナウマンゾウ 近藤 洋一	9	Beitrag: Edmund Naumann und Naumanns Elefant Yoichi Kondo
文化の玉手箱：心が身体を動かす「ピナ・バウシュ ヴッパ タール舞踊団」来日公演 2025 柴田 明	10	Kulturkiste: Der Geist bewegt den Körper „Tanztheater Wuppertal Pina Bausch Japan-Tournee 2025“ Akira Shibata
東西ドイツ統一 35 周年記念 特別企画		35. Jubiläum der Wiedervereinigung von Ost- und Westdeutschland: Sonderprogramm
Mel's Kangeki (研修生コラム)	メラニー・シェーファー 11	Mel's Kangeki (Die Kolumne der Praktikantin) Melanie Schäfer
ドイツ経済の動き 第 97 回	伊崎 捷治 12	Tendenz der deutschen Wirtschaft (97) Shoji Isaki
コラム：驚いてン Sie!?	鎌田タベア 13	Kolumne „Odoroiten Sie!?“ Tabea Kamada

日独協会会員のみなさまへ

立ち止まって旧年を振り返り、より明晰な視座をもって未来を見つめる — そんな静かな省察の時間を過ごすのが、新年の良き習慣です。

2025年の世界情勢を振り返りますと、不安定さと脆弱さを帯びた局面が少なからず見受けられました。しかし、まさにそのような時代だからこそ、日本とドイツは、両国のパートナーシップがいかに価値ある揺るぎない基盤に支えられているかを示してきました。

こうした絆を象徴する好例が、6月のフランク＝ヴァルター・シュタインマイヤー連邦大統領の訪日でした。東京では、日本とドイツが政治・経済のみならず学術分野においてもこれまで以上に両国のパートナーシップを深化させていくとの意思が、大統領により明確に示されたのです。

シュタインマイヤー大統領は東京で、『協力関係をさらに深めるポテンシャルは、まだ大いに残されている』と語りました。国際秩序が不安定さを増す時代において、日本をはじめとする価値を共有するパートナーの重要性は、かつてないほど高まっています。

外交の場で高らかに掲げられたスローガンは、大阪・関西万博2025という舞台で具現化されました。ドイツ館で開催されたナショナルデー特別イベント「地球、その先へ — 宇宙における日独協力」では、共通の課題、相互の信頼、新たなミッションに挑む勇気、そして、連携がもたらすイノベーションの加速について、活発な意見交換が行われました。

新たに署名された「平和目的のための宇宙協力に関する日独共同宣言」は、まさにこうした動きを後押しするものです。宇宙ロボティクス、衛星技術、地球観測に関する共同研究に加え、人工知能や量子、核融合といった未来のフロンティア領域における連携も目指しています。日本はこの分野において革新的なパートナーであり、科学が一段と安全保障政策の観点から捉えられるようになってきている現代において、極めて重要な役割を担う存在です。

シュタインマイヤー大統領が『民主主義の力』について語り、日本やドイツのような開かれた社会は批判的な自己検証と協力

Liebe Mitglieder der Japanisch-Deutschen Gesellschaft Tokyo, die ersten Tage des Januars sind traditionell eine Zeit der Reflexion - eine Zeit des Innehaltens, in der wir den Blick zurückwerfen, um mit geschärfter Sicht nach vorn zu schauen.

Wenn wir auf das vergangene Jahr 2025 blicken, sehen wir eine Welt, die oft unruhig und zerbrechlich wirkt. Doch gerade in dieser Zeit haben Deutschland und Japan gezeigt, wie kostbar und stabil das Fundament ist, auf dem unsere Partnerschaft ruht.

Ein leuchtendes Beispiel für diese Verbundenheit war der Besuch von Bundespräsident Frank-Walter Steinmeier im Juni. Seine Botschaft in Tokyo war klar: Deutschland und Japan wollen ihre Partnerschaft vertiefen – politisch, wirtschaftlich und, mehr denn je, wissenschaftlich.

„Es gibt noch viel Potenzial für vertiefte Kooperation“, sagte Steinmeier in Tokyo. Gerade in Zeiten, in denen die internationale Ordnung ins Wanken gerät, sind Wertepartner wie Japan wichtiger denn je.

Was auf diplomatischer Ebene nach großen Worten klingt, bekam in Osaka auf der Expo 2025 Gestalt. Beim sogenannten „Space Day“ im Deutschen Pavillon wurde über gemeinsame Herausforderungen gesprochen, über Vertrauen, Mut zu neuen Missionen – und darüber, wie Kooperation Innovation beschleunigen kann.

Eine neue bilaterale Raumfahrtvereinbarung zwischen Deutschland und Japan soll nun genau das fördern: gemeinsame Forschung zu Weltraumrobotik, Satellitentechnologien und Erdbeobachtung, aber auch die Zusammenarbeit bei

Grußwort zum Neujahr

Petra Sigmund

Botschafterin der Bundesrepublik Deutschland

新年のご挨拶

ペトラ・ジグムント

駐日ドイツ連邦共和国大使



からその強さを引き出すのだと説いたことには明確な理由があります。その姿勢は、科学の領域において特に顕著に現れており、日独両国は基礎研究からスタートアップに至るまで交流と相互学習を重視しているのです。

ドイツ人宇宙飛行士、マティアス・マウラー氏は、大阪・関西万博で核心を突くメッセージを残しました。『現代において私たちが直面する大きな課題を、一国で解決できる国はどこにもありません。地球上にも、宇宙にもありません。日本とドイツは価値を同じくするパートナーであり、単独で取り組むよりも、共に歩むことでより大きな成果を成し遂げることができるのです』。

友人のみなさま

1970年代から80年代にかけて「技術への情熱」に彩られていた日独の友好関係は、いままさに「新たな春」を迎えています。これは決して誇張ではありません。宇宙開発は、その象徴であると同時に、インスピレーションの源でもあります。明確な目標、それは、共に未来を創り上げることにほかなりません。

この目標を胸に、そして、2026年がみなさまにとりまして勇気と確信に満ち、多くの幸せな瞬間に恵まれる一年となることを願いつつ、新年の良きスタートを心よりお祈り申し上げます。

Zukunftsfeldern wie Künstliche Intelligenz, Quanten- und Fusionsforschung. Japan ist hier ein innovativer Partner – und ein wichtiger Gegenpol in einer Welt, in der Wissenschaft zunehmend auch sicherheitspolitisch gedacht wird.

Nicht ohne Grund sprach Bundespräsident Steinmeier von der „Kraft der Demokratie“ – und davon, dass offene Gesellschaften wie Deutschland und Japan ihre Stärke aus Selbstkritik und Zusammenarbeit schöpfen. In der Wissenschaft zeigt sich das besonders deutlich: Beide Länder setzen auf Austausch und gegenseitiges Lernen, von der Grundlagenforschung bis zu den Startups.

Der deutsche Astronaut Matthias Maurer brachte es in Osaka treffend auf den Punkt: Kein Land kann die großen Herausforderungen unserer Zeit allein lösen – weder auf der Erde noch im All. Japan und Deutschland sind gleichwertige Partner, die gemeinsam mehr erreichen als im Alleingang.

Liebe Freunde,

Die deutsch-japanische Freundschaft, die einst in den 1970er- und 1980er-Jahren durch Technik-Enthusiasmus geprägt war, erlebt – ohne übertreiben zu wollen – gerade einen neuen Frühling. Raumfahrt ist dabei Symbol und Inspiration zugleich – mit einem klaren Ziel: die Zukunft gemeinsam gestalten. Mit diesem Ziel – und dem Wunsch, dass 2026 für Sie alle ein Jahr voller Mut und Zuversicht und zahlreicher Glücksmomente werden möge – wünsche ich Ihnen einen guten Start in das Neue Jahr!

レポート

2025 年 クリスマスの集い

12/8 (月) 18:30 ~ 21:00 日立目白クラブ (東京都新宿区下落合 2-13-28)

Weihnachtsfeier 2025

Datum: Mo., 8. 12. 2025, 18.30 – 21.00 Ort: Hitachi Mejiro Club

柚岡 一明 (日独協会 常務理事)

12月8日(月)、当協会主催の「クリスマスの集い」が、昨年に引き続き日立目白クラブ様の趣ある会場をお借りして開催されました。当日はマルティン・フート首席公使ご夫妻を来賓にお迎えし、柳前大使をはじめ、100名を超える日独関係者が集い、盛大な会となりました。

はじめに、東原会長より主催者を代表して挨拶がありました。日独両国で新しい政権が誕生し、国際情勢が緊張する中、経済安全保障を含むさまざまな分野での協力が一層重要になっていること、また日独協会として、市民レベルでの文化交流・国際交流を通じ、両国を結ぶ架け橋としての役割の大きさを改めて実感していることが述べられました。あわせて、次世代を担う若い人たちの活動成果に触れ、ドイツ大使館からの継続的な支援への感謝の言葉で挨拶を締めくくられました。

続いて、フート首席公使より返礼のスピーチがあり、日独間における政治・経済分野での関係強化に加え、姉妹都市交流や日独・日独協会間の交流の重要性が強調されました。また、若い世代への支援活動についても触れられ、2026年4月開催の日独協会連合会総会に際して、ドイツ大使館主催レセプション開催への具体的な支援について言及されました。



フート首席公使のスピーチ

今回は、東京藝術大学音楽学部の立野華凜(たつの・かりん)さんと、同大



姉妹デュオによるヴァイオリン演奏

学附属高等学校で学ぶ立野心瑚(たつの・ここ)さんの姉妹によるヴァイオリン演奏が披露されました。演奏曲は、ルロイ・アンダーソン作曲の「そりすべり」で、会場は一足早いクリスマスの雰囲気になりました。

恵谷副会長による乾杯の発声の後にはビュッフェタイムとなり、会場には和やかな歓談の輪が広がりました。会の後半では、ハンドベル演奏、「樅の木」、「きよしこの夜」の合唱が行われたほか、寄付をご提供いただいた会員によるユーモアあふれるプレゼンテーションや、恒例の福引も実施されました。終始笑顔の絶えない盛り上がりのうちに、名残惜しくもお開きとなりました。下記はお二人の参加者からお寄せいただいた感想です。

私はこの冬、初めてクリスマスの集いに参加しました。毎年クリスマスの集いに参加している母からお土産話を聞いていたことがきっかけなので、私自身ドイツ語が話せるから参加しよう!というわけではありませんでしたが、クリスマスの集いをとても楽しみにしていました。会場である日立目白クラブに着くと、色とりどりのお料理と思わず立ち止まって聞き入ってしまうヴァイオリンの二重奏がお出迎えしてくれました。クリスマスの集いでは、日本語とドイツ語が飛び交い、様々な世代の参加者が「ドイツ」を共通話題に盛り上がっている場面が印象的でした。

ドイツ語を熱心に勉強されている方や東西ドイツ分裂時代に東ドイツを訪れたことがある方のお話など、普段大学生活を送る上で聞くことができない話題ばかりで、ワクワクが止まりませんでした。

これからも、日独友好活動が心温まる時間であり続けますように切に願っております。この度は貴重な機会を与えていただき、ありがとうございました。



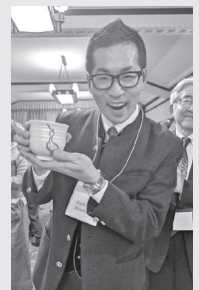
母娘でパチリ

西山 綾香 (日独協会 学生会員)

今年で「クリスマスの集い」に参加して3年目となります。私は3年連続でバイエルンとオーストリアの民族衣装のジャケット、ヤンカーを着用して参加させていただいております。この民族衣装を着ていると参加者の皆様からは多くの声をかけてくださり、また衣装に興味をもってくださり嬉しく思います。

日立目白クラブという趣のある建物で素晴らしい音楽の演奏、美味しい料理とお酒を楽しむ一時が私にとっての毎年のクリスマスシーズンの恒例行事になっております。

特に音楽の演奏が一番楽しみにしておりますが、今年は立野華凜さん、心瑚さんの姉妹によるヴァイオリンの演奏でしたがとても素晴らしく、クリスマスのシーズンにふさわしかったと思います。「もみの木」と「きよし この夜」の合唱は皆様の歌声に加え、ヴァイオリンの演奏で参加者の皆様の一体感を感じました。福引抽選会では湯呑みが当選し、今ではそれを使って日本茶を飲んでおります。



陶芸家作の湯呑をあてました!

今後も「クリスマスの集い」のみならず皆様と様々な機会ですばらしい交流を行うことを楽しみにしております。

初田 真志 (日独協会 会員)

ドイツ語講習会 2025 年度下半期コース

月～日曜日

Deutschkurse in der JDG, Oktober 2025- März 2026

jeden Mo.-So.

ドイツフェスティバル 2025 出店

11/1 (土) 11:00 ～ 17:30 都立青山公園

Teilnahme am Deutschlandfestival 2025

Datum: Sa., 1.11. 25, 11.00-17.30 Aoyama-Park

2011 年に始まったドイツフェスティバル。コロナ禍で開催されない年もありましたが、日独協会は、第一回目からずっと参加しています。今回も会期中 1 日だけではありませんでしたが、ドイツ大使館のブースを間借りして出店しました。ブースではドイツフェスティバル 2025 のテーマ「メルヘン街道 50 周年」にちなみ、「グリム童話 de キャラ診断」を行いました。協会オリジナルの診断シートにそって質問に答えて行くと、グリム童話に登場するキャラクターにたどりつき、それによって性格診断ができるというものです。当日この診断をした方で最も多かったキャラクターが「ハーメルンの笛吹き男」でした。

また、ブースでは名物企画「あなたのお名前をドイツ語にします」を行ったり、日独協会のオリジナルグッズを販売したりしました。ウムラウトくんエコバックに加えて、今年は新商品のナップザックや、ご好評につき再販することになったボールペン「クーゲルシュライバー」も販売。エコバックもボールペンも売り切れてしまいました。

当日はお天気も良く、たくさんの来場者がありました。協会の会員や、関係者、ドイツ語受講生も会場に足を運んでくださり、嬉しい再会の場ともなりました。お手伝いしてくださった会員の皆さまにも心より感謝申し上げます。



協会ブースの様子

懇談会サロン「ドイツと日本の移民・難民政策の比較」
Gesprächssalon „Ein Vergleich der Einwanderungs- und Flüchtlingspolitik in Deutschland und Japan“

Datum: Mo., 10. 11. 25, 18.00-19.30

Ort: Seminarraum der JDG

講師：滝澤三郎先生（東洋英和女学院大学名誉教授）

参加者 15 名。講師は、ドイツと日本の移民・難民政策の流れを安全保障、市場、人権・文化の四つの視点から比較し、制度の変化を説明された。ドイツは 2000 年代に「移民国家」に転換、2015 年以降大規模に受け入れたが、治安等の摩擦により AfD の台頭を見た。日本は「難民鎖国期」を経て、2018 年に特定技能を有した外国人労働者を受け入れ、2023 年から「選択的開国」に転換した。これらの動きを比較して、現在に至って日本の慎重な対応は、むしろ妥当であったのではないかと見られている。（佐藤 勝彦）

ドイツ時事問題研究会（115 回）

11/15 (土) 15:00 ～ 17:00

Studiengruppe „Deutschland aktuell“ (115)

Datum: Sa., 15.10. 25, 15.00-17.00

1. 今月の主なトピックスは、①デモなどによる抗議を呼んだメルツ首相の（移民がたむろする）「都市の風景」発言、② ARD（公共第 1 放送）の世論調査で回答者の 85% が極右政党 AfD の伸長の理由は他の政党の政策に対する失望感と回答、③連邦人口研究所の調査でドイツ生活に対する移民の満足度が高いことが判明、④シリアの情勢改善で持ち上がる同国難民の帰国・送還問題、⑤兵役再開に伴う募集要領で与党が合意、などについて報告し、質疑応答を行った。

2. 今月のテーマは「移民の歴史と人材受け入れの現状」と題として、伊崎から過去のいわゆる「外国人労働者の募集」、2000 年から始まったグリーンカード制を経て積極的な人材受け入れに転じた 2005 年移民法の発効、現在の専門人材移民法の概要などを説明。活発に議論した。

(伊崎 捷治)

シュブラハトレッフ（日独言語交換会）

11/15 (土) 19:00 ～ 20:40

Sprachtreff

Datum: Sa., 15. 11. 25, 19.00-20.40

参加者約 50 名。提案テーマは「文学・読書」と「語学学習」で、今回も事前に会話で使えるような語彙や表現のリストを参加者に送りました。イベント後のアンケートには、「ドイツ語ネイティブの方と村上春樹の話ができたり、ドイツ語で AI は KI だと教えていただいたり、刺激的で楽しかったです。」や「グループのドイツ人の皆さんが日本語堪能で、ロリータファッション、仏教、宝塚歌劇団と色んなトピックに興味を持っていました。私の紹介した本に皆さん関心を抱いてくれたことがとても嬉しかったです。」といった感想が寄せられ、楽しく語学と情報の交流ができたようでした。ドイツ語母語話者の参加者からも、「興味深いテーマで楽しく会話することができた」といった意見や、各グループ内のサポーターの方々への感謝が寄せられました。このイベントは授業ではなく、サポーターは先生ではありません。サポーターはあくまで会話のお手伝いのために初中級（B1 レベル）までのグループに入っていますが、会を楽しむのは参加者自身です。語学力に自信がなくても受け身ではなく積極的な姿勢で参加していただければと思います。

懇談会サロン「ドイツ語と日本語におけるコミュニケーションの比較 — 心動詞が映し出す文化的感覚」
Gesprächssalon „Eine Vergleichsstudie zur Kommunikation im Deutschen und Japanischen. Kulturelle Unterschiede, die sich durch Modalpartikeln ausdrücken“

Datum: Mo., 17. 11. 25, 19.00-20.30

Ort: Seminarraum der JDG

講師：綿谷エリナ（ラジオ DJ / エッセイスト）

参加者 33 名。ドイツ語の心動詞（Modalpartikeln：ニュアンス語）に関する講演を、52 枚のスライドを用いて拝聴した。心動詞は、命題（事実内容）を変えことなく、

話し手の感情・共有前提・態度・対人関係を付与する語群であり、日本語の終助詞（～ね、～よ、～じゃん）に相当する。ドイツ語の心態詞は語順・位置に制約があり、文頭には置けず、否定の直後にも置けない。また、und / oder での接続は不可であるが、並列は可能である。書き言葉（ニュース・公文書）ではほとんど用いられず、口語・歌詞・会話で主に機能する。代表的な心態詞としては doch・aber・ja・mal・denn・halt・eben・wohl・einfach など15種が挙げられる。

講演では各心態詞について実例を示しながら解説が行われた。たとえば doch は反問・訂正・軽い非難・呆れ・背中押し・驚きなどの用法を持ち、自己主張の手段として運用される場合がある。ドイツにおいては表現の自由と議論における強い言葉遣いが容認されるが、主張には必ず根拠と理由が求められる。一方、私的な場面では円滑な関係維持が優先され、言葉選びには配慮が必要とされる。本講演により、心態詞の機能と使用条件について理解を深めることができた。（木田 宏海）

独逸塾

11/17(月) 19:00～21:00

Lektürenkreis „Neuigkeiten aus DACH“

Datum: Mo., 17. 11. 25, 19.00-21.00

参加者 20 名。森永成一郎氏世話人退任後初の独逸塾。テキストは森永氏選定 8 月 22 日発行シュピーゲル誌の「Was wird aus der Milliardenfabrik?」でした。以下、大まかな内容です。

「2022 年、ベルリン近郊ブランデンブルク州グリューンハイデにあるテスラ社の巨大工場で、電気自動車の生産が正式にスタート。国や州政府の後押しで工場建設は異例の速さで認可され、地域全体に目覚ましい経済効果をもたらす重要なビジネス拠点として、当初は大きな期待が寄せられていた。しかし、地元の環境団体や市民運動が、工場による水の消費・汚染、森林破壊に強い懸念を呈する一方、電気自動車の販売台数は大幅に減少。雇用の安定性も疑問視される。結果、工場拡張計画は当面保留となる。今後このギガファクトリーはどうなるのか?」

新司会者の松岡優美子氏により、担当者の訳は段落ごとに吟味され内容が鮮やかに整理されていきました。印象的だったのは Stoff の解釈。担当者(私です!)が「素材、成分」と曖昧に訳したのに対し、生物のエキスパートがすかさず「窒素やリンのような汚染物質」と訂正してくれました。独逸塾の参加者には自然科学、法律、経済のエキスパートが揃っていて、内容に関する一歩踏み込んだコメントが毎回理解を深める助けになります。

今回から終わりの 30 分に「振り返りコーナー」を設けました。電気自動車や太陽光パネルの欠点、プラごみ等環境問題をめぐって異様に話が盛り上がり、21 時の終了が名残惜しい新体制一回目の独逸塾でした。（渡部 一子）

ドイツ語圏文化セミナー 174

ドイツ・オーストリアの秋の味覚、フェーダーヴァイサー/シュトルムを味わおう 9

11/23(日) 15:00～17:00 日独協会セミナールーム

Seminar 174 : Neuer Wein, alte Tradition -Federweißer stürmt Tokyo-

Datum: So., 23. 11. 25, 15.00-17.00

Ort: Seminarraum der JDG

参加者 40 名。毎年恒例となったこのイベント、日本でフェーダーヴァイサーを飲める貴重な機会ということで協会の名物イベントになりつつあります。今回も早々に満席となりました。

今年も、山形の「月山トラヤワイナリー」のしぼりたて濁りワイン「月山山麓ほいりげ」の白（フェーダーヴァイサー＝白い羽）とロゼ（フェーダーローター＝赤い羽）を、ドイツパン教室「PS パパン」さんによる本場仕込みのツヴィーベルクーヘン（ドイツ風玉ねぎのクッシュ）やドイツパンのセットと一緒に召し上がっていただきました。PS パパンさんはこのイベントのためにベーコンも手作りし、生徒さんたちと早朝 4 時から焼き上げてくださったそうです。

試飲のまえに、まず協会スタッフの宮本さんと研修生メラニーさんによる「Federwissen!? どこまで知ってる? Federweißer/Sturm クイズ」が行われました。この飲物の特性、販売法や慣用句などについてのクイズで、飲む前にまずはうんちくを深めることができました。クイズが終わったところでいよいよ試飲スタート。飲みやすい飲物ですが体にまわるのも早く、皆さんすぐに良い気分になったようで、グラスを片手に参加者同士でのおしゃべりにも花が咲いていました。今回はドイツ人参加者も来られ、「なつかしい味! 美味しい!」と喜んでくださっていました。コロナ禍でも形を変えて開催してきたこのイベントも次で 10 周年を迎えます。2026 年も皆さんと一緒に乾杯できることをスタッフ一同楽しみにしています。



グラス片手に交流を楽しむ参加者たち

日独間クロスボーダー年金課税セミナー ～ドイツの年金を受給されている方へ～

12/12(金) 14:00～15:30

Seminar zur grenzüberschreitenden Besteuerung von Renten zwischen Japan und Deutschland

Datum: Fr., 12. 12. 25, 14.00-15.30

講師：池田良一（ドイツ・EU 関連ビジネスコンサルティング）参加：14 名

かつてドイツで勤務し、現在ドイツの年金を受給されている方から多くの問い合わせがあるのが課税問題。これまで受給していた年金にはドイツから課税されておらず、確定申告の際、日本でまとめて申告し納税されている方も多くおられる中、いきなりこれまで支給したドイツ年金に課税する、との手紙をドイツ税務当局から受け取り戸惑っている、との声をしばしば聞くようになりました。これは 2017 年の日独租税条約改定に伴う措置ですが、ドイツ税務当局のアクションが遅く、ようやく 2020～2021 年頃から納税督促通知が送られてくるようになりました。

当協会ではこの課税問題についての様々な疑問、質問にお答えするため、昨年 11 月、PwC デュッセルドルフ事務所長年勤務し、在独日系企業に対する税務アドバイスでは豊富な経験を有する池田良一先生を講師にお迎えし、対面にて会員向けセミナーを開催しましたが、今回は対象を非会員にも広げオンラインで実施しました。18 名の申込が

あり、実際には14名のご参加でしたが、中には早朝にも拘らずドイツ在住の方の参加もありました。池田先生には、複雑な課税問題をイラスト入りスライドを用い噛み砕いて解説いただき、また幾つかの質問にも丁寧にお答えいただきました。今後もニーズに応じて適宜開催を継続したいと考えています。(森宏之)

シュブラッハトレッフ (日独言語交換会)

12/13 (土) 19:00 ~ 20:40

Sprachtreff

Datum: Sa., 13. 12. 25, 19.00-20.40

参加者約40名。今回の提案テーマは「クリスマスや年末の過ごし方」と「今年の振り返り」でした。もちろんこれはあくまでご提案ですので、フリートークをされることも全く問題ありません。事後のアンケートを見ると、今回の参加者の内訳は日本語母語話者では、日独協会のドイツ語講座の受講生(約40%)が一番多く、次いで独学者(30%)となっており、ドイツ語母語話者では、独学者(50%)、市民大学受講生(20%)、インターネットやアプリを使った学習者(20%)となっていました。このイベントが学んだ語学知識を実践で使う機会として、そして、学習言語の母語話者と交流する機会として、大いに活用されていることを感じました。

この交流会では、レベルごとに参加者のグループ分けをして6~8名のグループで語学交換をしていますが、もちろん毎回参加者は変わりますし、グループ内のメンバーによって雰囲気も毎回違うものになります。一方、A1.2レベルのグループは顔ぶれが大体同じになることが多く、和気あいあいとした雰囲気ができあがっているようです。

今回もご協力してくださったサポーターの皆様、本当にありがとうございました!

はじめてのドイツワイン

ー 第5回 冬に楽しむドイツワイン ー

12/14 (土) 14:00 ~ 16:30 日独協会セミナールーム

Deutscher Wein für Anfänger Teil 5

Deutscher Wein für Winter

Datum: So., 14. 12. 25, 14.00-16.30

Ort: Seminarraum der JDG

参加者14名(会員8名+一般6名)

試飲内訳: 赤4本、白3本(1本泡)

「初めてのドイツワイン」も開催5回目となりまして、講師賀久さん、伏見ワイン山本さんと共に皆様と「冬に楽しむワイン」の講座を致しました。今回はなんと7種類全部違う葡萄品種のワインが用意され香りや味わい産地の特色解説に加え、クリスマスやお正月料理のどの料理にどのワインが合うのかをドイツパンと共に試していただきました。シュトレンにはコレ!おでんの出汁にはコレ!と言ったお声も上がり、和気藹々とした楽しい会となりました。ドイツ料理を普段から用意するのは難しいため、和食に合わせて日常的に楽しんでいただきたいという理想にピッタリハマった講座となりました。

ドイツでは温暖化の影響で昔からある品種に加え近年南の方で栽培される葡萄栽培も盛んになり多様化しています。今回特に人気があったワインは、白ワインではショイレーベ&シュナンブラン、赤ワインではトロリ

ンガーとボルトギーザでした。主張の優しいワインがやはり日本料理にも合わせやすいと特に皆様からご支持をいただいたようです。ぜひお気に入りのワインを見つけて季節ごとに楽しんでいただけたら幸いです。Vielen Dank! Tschüss! 小倉 彩記子 (イベント講師)



ワインの解説をする賀久哲郎理事

独逸塾

12/15 (月) 19:00 ~ 21:00

Lektürenkreis „Neuigkeiten aus DACH“

Datum: Mo., 15. 12. 25, 19.00-21.00

参加者24名。森永成一郎氏世話人退任後2回目の独逸塾。テキストは會田田人さん選定 Deutschlandfunk 4月4日配信「Wenn Spitzenforscher das Land verlassen」でした。以下、概要です。

「トランプ米大統領は意に沿わない学術研究の予算を削減し、研究者を抑圧、解雇している。今後アメリカのトップ研究者の国外流出は加速する可能性がある。ドイツの大学や研究機関はこの事態を好機と捉え、ビザ手続きの簡素化・迅速化と財政支援拡充の必要性を訴えている。具体的な試みとして最も注目を集めているのは、ナチスの迫害から逃れ学問の自由を求めてドイツを去った二人の物理学者、リーゼ・マイトナーとアルベルト・アインシュタインの名を冠した『マイトナー・アインシュタイン・プログラム』。ドイツ研究振興会が調整し連邦教育研究省が資金を提供して、ドイツを魅力的な学術拠点として強化し、米国の優秀な人材を誘致する計画である」

当然「では日本では?」という話になりましたが、「昨年『国際卓越研究大学』に認定された東北大が、文理を問わず外国のトップ級研究者獲得に積極的」という情報のみに留まりました。次回は同じテーマでオーストリアの記事が取り上げられるため、改めて日本の反応も話題にできたらと思います。

今回の司会は化学のスペシャリストでAIに精通している井伊篤彦さん。軽妙洒脱な進行で、訳の合間のコメントがお宝話。とても面白く為になりました。また、初めて聴講のみで参加された学生会員の方からの感想メール、「記事の内容が興味深かったのと、記事に使われる語法の定訳などを学ぶことができ大いに楽しませて頂いた。ゆくゆくは訳者として参加しフィードバックを頂ければ」は感涙ものでした。(渡部 一子)

懇談会サロン「EUと民主主義の今後」

12/15 (月) 18:00 ~ 19:30 日独協会セミナールーム
Gesprächssalon „Die Zukunft der EU und der Demokratie“

Datum: Mo., 15. 12. 25, 18.00-19.30

Ort: Seminarraum der JDG

参加者19名。

講師：アインゼル フェリックス ラインハルト氏

(ゾンデルホフ&アインゼル法律特許事務所代表)

先ず講師は「ヨーロッパとは何か」という点からヨーロッパは地理的な概念はなく文化的、政治的、経済的、法律的な側面を加味した概念であり、EUの歴史にはヨーロッパの栄光、挫折、復権の歴史が深く関わっていると導入された。更にEUが発足するまでのプロセスとEUの組織を詳しく述べられた。そしてドイツについて言及、ドイツの「戦う民主主義」に付いて触れ、民主主義を100%保障できる憲法などはこの世に存在しないとされた。

その上で、世界における民主主義の衰退の原因について詳しく分析され、民主主義の欠点としてポピュリズムを挙げた。講演のまとめとして「専制政治と民主政治の何れが望ましい制度か？」を考えた。何れの政治制度を採用するとしても恒久的な平和は今までになく、なればEUの80年の平和からあまねく学ぶべしと締めくくられた。(佐藤 勝彦)

ドイツ語圏文化セミナー 175

「魔術の世界 クリスマスマーケット — 中世ドイツから現代へ —

12/19(金) 18:30 ~ 21:00 日独協会セミナールーム
Semiinar 174 : Die Welt des magischen Weihnachts-marktes -Vom Mittelalter bis zur Gegenwart-

Datum: Fr., 19. 12. 25, 18.30-21.00

Ort: Seminarraum der JDG



大畑悟さんのお話に耳をかたむける参加者たち

参加者 30 名。ドイツの「クリスマスマーケット」は、寒くて暗いドイツの冬にも心身を温めてくれるイベントです。今回はドイツ観光局の広報マネージャー、大畑悟さんに、クリスマスマーケットの起源と歴史からおススメのマーケットまでお話いただきました。その起源としては、14 世紀に Bauzen 市で「自由肉市」の開催が許可されたことが最初だったのではないかとのこと。豚肉は縁起物と考えられており、また寒い冬を越すためには保存肉の確保は死活問題であったそうです。そう考えると現代でもソーセージを食べるということは、クリスマスマーケットでの「正統な」行為と言えます。また、シュトレンについては 1329 年に Naumburg 市の資料に初めてその名が記述されているそうですが、中世では砂糖は大変めずらしいもので、薬のように使われていたので、それをふんだんに食料にかけるといった使い方はされていなかったのではないかとのことでした。他にもマーケットの象徴的なアイテムやおススメのマーケットについてお話いただきました。続いて研修生メラニーさんが故郷のクリスマスマーケットや自宅での過ごし方について紹介してくれました。出身地域ではより地域のコミュニティ

で交流が深まるようなマーケットが行われているそうです。例えば、サンタさんがやってきてトナカイのかわりにトラクターに子どもたちを乗せて周辺をドライブしてくれたり、出身の村では、“Lebendiger Adventskalender”が行われ、毎日ひとつの家族が家の窓をデコレーションして飾り、他の村人達はその家を訪れて軽食をいただいたりするそうです。また、メラニーさんのおうちのクリスマスディナーや Krippe (キリスト降誕場面のオブジェ) のコレクションを紹介してくれました。

第 2 部では、シュトレンやレープクーヘンとともに、協会の手作り Glühwein と Punsch を皆さんに味わっていただきながらの交流会となりました。ドイツから遠く離れていても、すこしクリスマスマーケットの雰囲気を楽しめたように思います。

ドイツ時事問題研究会

12/20(土) 15:00 ~ 17:00

Studiengruppe "Deutschland aktuell" (116)

Datum: Sa., 20.12. 25, 15.00-17.00

1. 今月のトピックスでは、①リンクバイル財政相（副首相）が中国を訪問、財政協議で金融市場の開放、過剰な生産の縮小を求めたこと、②独占委員会が「食料品サプライチェーン競争状態特別報告書」で小売市場の寡占状態による価格上昇の疑いを指摘、②年金パッケージ（現役世代の 48% を堅持、母親年金の対象拡大、継続就業所得を 2,000 ユーロまで非課税など）を連邦議会で可決、③志願制を柱とする兵役法を連邦議会で可決、④大幅な赤字を見込む 2025 年連邦予算が連邦議会通过、⑤前身よりも過激とみられる AfD の新青年部 Generation Deutschland の設立、などについて報告し、質疑応答を行った。
2. 今月のテーマでは (1) 「ドイツの年金— (主要国と) 比べてみると」と題して新井世話人から主要国の現状を報告、(2) 大町さんから提示いただいた「2025 年ドイツの重大ニュース」に基づいて、メルツ政権の発足など主な出来事の経緯を振り返り、問題点や成果について議論した。(伊崎 捷治)

※会場が書かれていないイベントはオンラインで開催されました。

日独協会への寄付金報告

Bericht über Spenden an die JDG

2025 年第 2 次 (8 月 1 日 ~ 12 月 31 日)

下記の方々よりご寄付いただきました。ご芳志、心より御礼申し上げます。いただきましたご寄付は協会の事業運営に善用させていただきます。(敬称略・順不同)

100,000 円	6,000 円	鈴木 真喜子
菅家 力	関谷 勝浩	林 良雄
匿名	3,000 円	909 円
	島崎 一彦	中川 祐聖
	樋上 雅之	

ご寄付やご遺贈は協会活動の礎となり、日独交流の次世代育成を支えます。皆さまのお力添えをお願いいたします。